

(様式2)

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
高3	川崎総合科学高等学校全日制	濱野 雄功

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・真理を探究し、高邁な人格の育成に努める。 ・教養を高め、豊かな創造力と健全な批判力の育成に努める。 ・専門の知識と技術を習得し、勤労を愛する精神の育成に努める。 ・身心を鍛錬し、明朗にして良識ある社会人の育成に努める。	1 学習指導・生活指導・進路指導 2 学校環境の整備、安全管理 3 教職員の資質・能力の向上、学校の組織力・チーム力の強化 4 外部との連携の推進と効果的な広報活動の実施

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	(1) 学習指導	生徒の理解の定着と学力の伸長を目指した授業の工夫と改善を図る。各科の特性を踏まえ、実践力と意識の伸長を目指した専門教育を推進する。	専門的な知識や技術の向上に努めた。また日々進歩する技術革新に伴い本校の専門教育の将来像に対する課題意識が高まっている。	各科・各教科が専門性を追求し、それを支える基礎学力や学ぶ意欲の伸長を図る取組を継続するとともに新しい取組への研究・研修を行う。
	(2) 生活指導	特別活動の充実を図り、生徒の自主性・主体性の育成を図る。規範意識を育て、規律ある学校生活の充実を図るとともに、いじめを許さない環境作りに努める。	生徒会行事の充実を目指し、活動を工夫することで、学級活動、学年行事等も活性化している。「いじめに関する実態調査」を行い定期的・継続的にいじめを許さない雰囲気や、情報収集と迅速な対応ができるシステムを構築している。	一人ひとりの人格を尊重し個性の伸張を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目標とする。生徒からの声や教育相談に対し適切に機能する組織作り、環境作りを継続する。
		生徒理解の姿勢に立って向き合い、社会性、思いやり、生命尊重の心等の道德性の伸張を図る。特別な教育ニーズを持つ生徒への理解を深め、個を大切にした指導の充実を図る。	支援教育への理解が深まり、個々の状況に応じた相談や支援が行われている。引き続き組織的な対応についても研修し、更に理解を深めていく必要がある。	生徒に寄り添い、情報の共有化と目標をもって具体的な支援につなげるためのケース会議を開催するなど、教職員の意識改革、校内組織体制、研修機会の構築・活性化をさらに推進する。
	(3) 進路指導	生徒・保護者・教師の連携のとれた指導体制の充実を図り、生徒の将来目標の具体化・明確化を促進し、希望の進路実現を果たす。	多様な進路に対応するべく進路指導部を中心とした計画的で、具体的な取り組みが継続され、各科・学年と連携をとることにより成果をあげている。	進路指導計画、企業訪問、職場体験などの実施し、それぞれの進路に適した細やかな対応等が継続できる環境整備が必要である。
2	環境整備、安全管理、健康管理	学校生活の充実を図るために、学校全体の環境整備に取り組む。	防災に関する意識付けのための指導の工夫を継続していくとともに、対応した環境整備を進めていく必要がある。	生活習慣を自律的に管理できることを目標に、家庭とも連携しながら取り組む努力を継続する。様々な場面で適切な避難行動ができるよう訓練を継続する。
3	学校運営	学校教育が円滑に機能するような組織運営を図る。	指導力向上に向け、授業および教育活動におけるICT活用に関する校内研修に取り組んだ。引き続き教職員間で共通理解を深める必要がある。	現在実施している研修等が習慣的に取り組まれるよう働きかけが必要である。
4	保護者・地域など外部との連携	外部との連携を重視した開かれた学校づくりを推進するとともに学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の学校教育への参画と理解を図る。	地域社会の行事に積極的に参加している。大学や企業等外部との連携による事業に各科ごとに特色を持ち、積極的に取り組んだ。	引き続き外部との連携を継続するとともに、学校の魅力を十分に伝えられるよう、より良い情報発信を積極的に行う。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
学校教育推進会議において、地域清掃活動や秋祭りなどといった地域行事への積極的な参加に加え、災害対策などについても連携して取り組んでいきたいのご意見をいただいた。	ICTを活用した授業および教育活動についての取組は定着してきたので、更に発展的な取組を目指していく。 支援の必要な生徒が年々増加しており、丁寧に寄り添った対応をしているが、これまで以上に組織的に取り組んでいくことが重要である。 様々な外部連携を実施してきたが、引き続き積極的に取り組み、生徒へ刺激を与え活性化を図っていくとともに、有効な広報活動を実施していきたい。